

# 学位論文の要旨

専攻名	システム工学 専攻	ふりがな 氏名	の と 能登 恵里 ④
学位論文題目 子どものためのヘルスケア施設における案内支援システムに関する研究 ( Study on Inquiry Support System in Children's Healthcare Facilities )			
<p>医療技術の高度化、専門化にともない病院建築の物理的環境はハードなものとなり、利用者の心理的負担を増やす結果をもたらした。1990年代から Janet R. Carpmann らによるヘルスケア施設で患者や訪問者、スタッフが感じるストレスを緩和し、医療行為の補助・治癒促進を目指し、デザイン・環境で心理的にサポートする支援的デザインの重要性が数多く取り上げられるようになった。</p> <p>本研究では、主に身体的・精神的成長が著しく、成長過程で様々な影響を受けやすい子どものためのヘルスケア施設における支援的デザインに着目した。ヘルスケア施設の環境構築において建築設備、色彩や照明、手触りなどのデザイン要素、家族との交流による心の安らぎを与える支援的デザインは、ヘルスケア施設環境の向上をもたらす。</p> <p>本研究の目的はヘルスケア施設において利用者を心理的・身体的にサポートする支援的デザインの中で特にアートに着目し、療養環境改善のための運営や計画の指針を得ることである。さらに、子どものヘルスケア施設における支援的デザインの展開として、案内支援システムの導入における指針を得ることを目的とする。</p> <p>第1章「序論」では、本研究の目的と方法、用語の定義を示す。また既往研究として支援的デザイン、ヒーリングアート、チャイルドライフプログラムなどを取り上げ、子どものヘルスケア施設における療養環境改善のための知見を得る。</p> <p>第2章「支援的デザインの事例分析」では、アートの導入事例の現状を確認し、アートの種類、設計者やアーティストなど作り手の意図を分析する。対象施設の比較の軸をアート導入にあたるシナリオの存在とし、療養環境改善を目的にアート導入した事例を取り上げる。対象事例は子どもの医療施設として子ども病院・小児病棟、子どもの医療福祉を合体させた施設として療育施設、精神弱者の医療施設として精神病院、一般病院の4分類を行う。</p> <p>第3章「利用者に対するアートの心理的影響」では、建築をアートとして捉えた一般病院、アートを導入した小児病棟・療育施設・精神病院の4施設において、利用者に対するアートの心理的影響を確認し、アート導入による効果の検証を行う。</p> <p>第4章「案内支援システムとしてのアートの有用性」では、アートによるプリパレイション・ツールとして絵本を取り上げ、絵本の視覚表現を分析した上で、実際に子どものヘルスケア施設向けの案内支援システムとしての絵本を制作し、提案する。同様の絵本事例を比較し、案内支援としての必要項目を分析する。</p> <p>第5章「結論」では、本研究でとりあげた療養環境改善のための指針を今後の施設計画への提案として結論を述べ、ヒーリングアート導入による展望を示す。</p>			